

令和7年度
金ヶ崎町ツキノワグマ動向調査業務
報 告 書

令和7年12月

岩手県 胆沢郡 金ヶ崎町

目次

業務概要.....	1
1. 業務目的	1
2. 業務対象地域.....	1
3. 業務実施期間.....	1
4. 業務内容	1
5. 提出物	1
6. 業務工程.....	1
7. 業務委託先.....	1
第1章 カメラトラップ調査.....	2
1. 調査方法	2
2. 調査結果.....	4
第2章 現地調査および移動経路の考察.....	9
1. 現地調査	9
2. 移動経路の考察.....	11
第3章 総括	13

業務概要

1. 業務目的

本業務は、金ケ崎町内のツキノワグマの頻出地点において、ツキノワグマの移動経路等を調査することにより、人里への出没を防止する対策の構築に繋げることを目的とする。

2. 業務対象地域

岩手県 胆沢郡 金ケ崎町 地内

3. 業務実施期間

令和7年10月15日から令和8年2月2日

4. 業務内容

本業務では、町が指定する地点に出没するツキノワグマを対象に、次の業務を行う。

- (1) 5台のカメラを2か月程度設置し、ツキノワグマの出没状況の把握を行う。
- (2) 現地調査により、ツキノワグマが人里に出没する経路及び要因を分析・整理し、今後取り組むべき課題を提案する。

5. 提出物

本業務における納入成果物は次のとおりとし、町が指定する期日までに納入することとする。

- ・本仕様書に定める提案書 紙媒体2部
- ・電子媒体（メールによる提出可）

6. 業務工程

作業内容	2025年			2026年		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(1) 打ち合わせ	◆					
(2) カメラの設置・撤去	◆	◆	◆			
(3) 解析・提案書作成		◆	◆			
(4) 報告書の作成			◆			

7. 業務委託先

合同会社 東北野生動物保護管理センター
〒989-3212 宮城県仙台市青葉区芋沢字赤坂 16-1

第1章 カメラトラップ調査

ツキノワグマ（以下「クマ」）の移動経路や出没傾向を把握するため、センサーカメラを用いたカメラトラップ調査を実施した。なお、同様の調査を令和6年度の8月～11月にも実施している。

1. 調査方法

(1) センサーカメラ設置箇所

昨年度の調査ではクマの出没が少なく、設置したセンサーカメラでクマが撮影されなかった。そこで、令和6年度に選定した地点と同じ地点に6台のカメラを設置した（図1）。いずれの箇所も市街地への移動経路になり得る水系に注目して選定している。

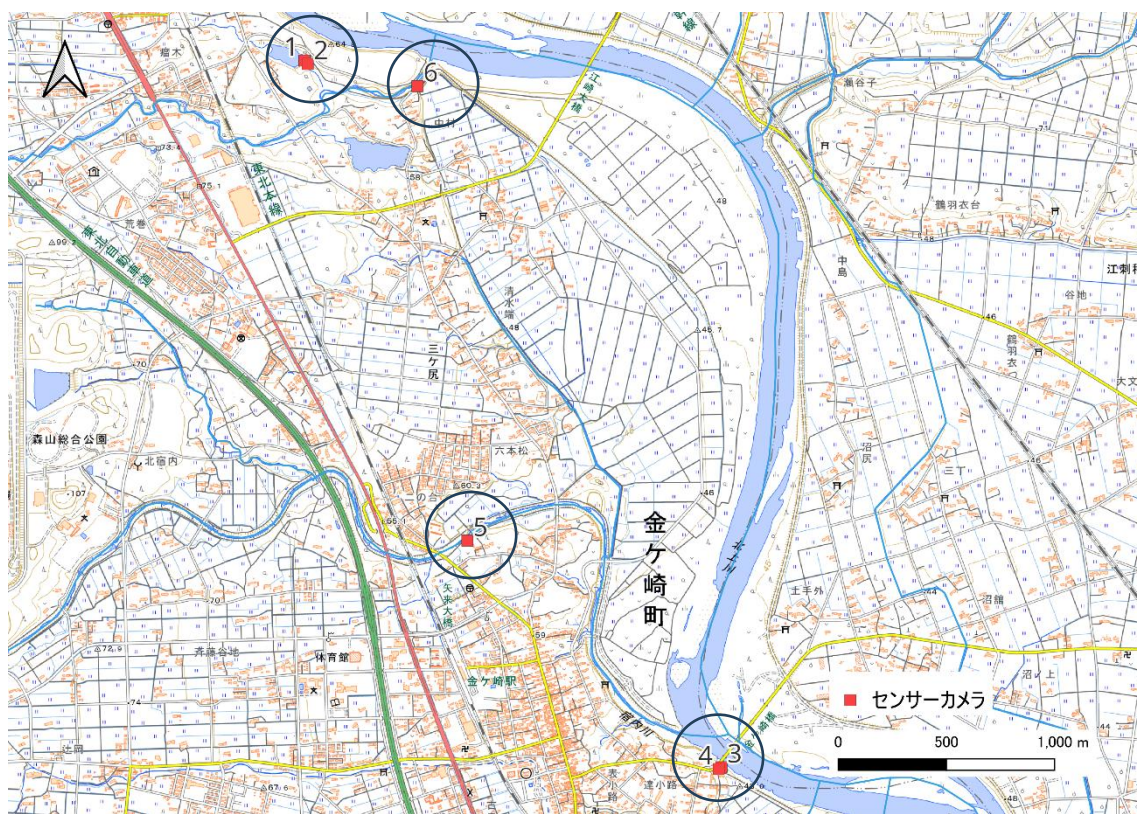


図 1 センサーカメラの設置場所



写真1 設置したセンサーカメラ

(2) 使用機材

センサーカメラは赤外線による夜間撮影が可能な機種を用いた。機種は Bushnell 社製トロフィーカム XLT 30MP ノーグロウ SC4K 119949C を使用した。表 1 にセンサーカメラの設定を示した。

表 1 カメラの設定

項目	設定値
撮影モード	Video
赤外線LEDの明るさ	Medium または Low
動画撮影の解像度	1920×1080
1回の撮影時間	60秒
撮影間隔	0.5秒
センサー感度	Auto

(3) 設置期間

令和7年10月20日～令和7年12月19日（60日間）

(4) カメラのメンテナンス

期間中2回のメンテナンス作業を行い、3回目の見回りで撤去した。メンテナンスの際は電池とSDカードを交換した。空撃ち防止のため刈り払いやセンサー部分の清掃も適宜実施した。

2. 調査結果

撮影した動画から動物が撮影された動画のみを抽出し、撮影回数を集計した。なお、30秒以内に同一の動物種が撮影された場合は重複するイベントとして除外した。クマはイベントベースで10回撮影され、イノシシの撮影はなかった。集計結果を表2および図2に示す。

表 2 動物種別撮影回数（イベントベース）

	クマ	シカ	カモシカ	キツネ	タヌキ	ハクビシン	その他
カメラ1	7	6	6	149	35		2
カメラ2	2		1	10	17	1	2
カメラ3		1					
カメラ4				9	26		
カメラ5		3	2	7			2
カメラ6	1			8	11	2	2
総計	10	10	9	183	89	3	8

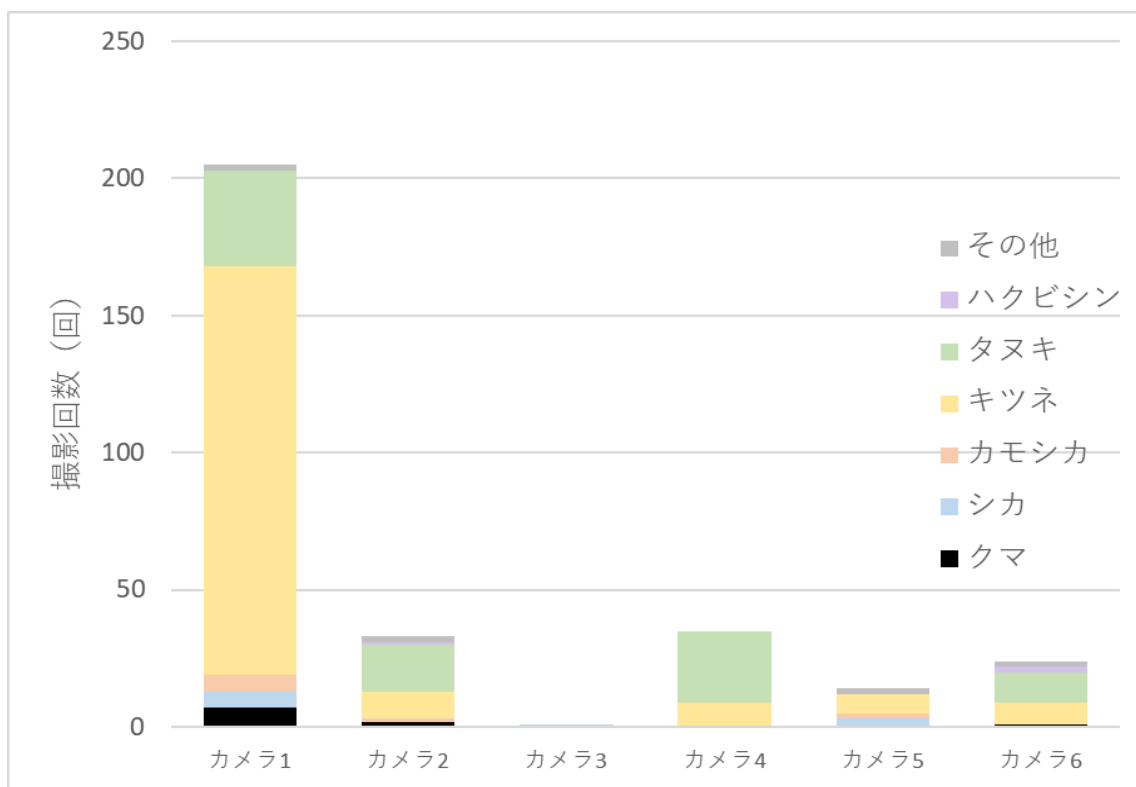


図 2 動物種別撮影回数 (イベントベース)

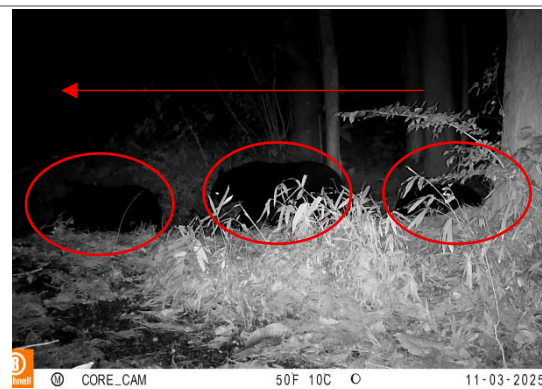
クマに注目すると、カメラ1で7回、カメラ2で2回、カメラ6で1回の合計10回撮影された。カメラ2で撮影された2個体は、撮影時間からいずれもカメラ1で撮影された個体と同一であると考えられる(-2頭)。また、3頭の親子が2回撮影されており(+4頭)、最大12頭が確認されたことになる。なお、今回の調査では個体識別を行っていないため、重複も考えられるが、体サイズから最低4頭以上は出沒している。イベント別の詳細を表3に、撮影されたクマの様子を写真2に示す。

カメラ1で撮影されたクマの移動方向を確認したところ、林道を東西いずれにも移動していることが分かった。ただし、後生平ため池の方向に戻っているクマは1頭も撮影されていないことから、別のルートでため池方向に戻っていると考えられる。

撮影されたのはいずれも夕方18時から早朝5時30分までの暗い時間帯であった。特にカメラ1、2を設置した林道は生活道としても利用されており、クマが撮影された前後で通行人も撮影されている(写真3)。通行する方に向けた注意喚起を行う必要があると考える。

表3 撮影されたクマの集計

イベント	カメラポイント	撮影日時	頭数	備考
1	カメラ1	2025/11/3 3:34	3	親子
2	カメラ1	2025/11/6 20:48	1	
3	カメラ1	2025/11/7 0:36	1	
4	カメラ1	2025/11/7 0:48	3	親子
5	カメラ1	2025/11/14 4:39	1	
6	カメラ1	2025/11/25 0:46	1	
7	カメラ1	2025/11/25 5:27	1	
8	カメラ2	2025/11/6 20:48	1	イベント2と同一個体
9	カメラ2	2025/11/25 5:27	1	イベント7と同一個体
10	カメラ6	2025/10/24 18:11	1	



イベント1_カメラ1_11月3日_3:34



イベント2_カメラ1_11月6日_20:48



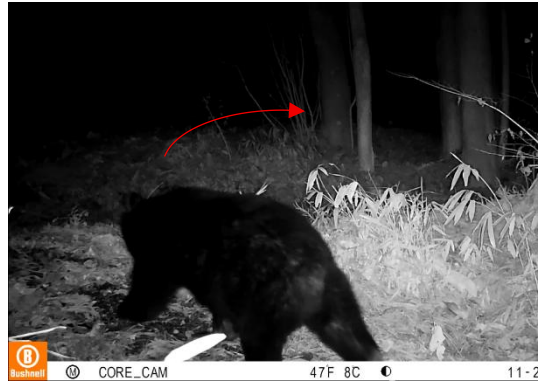
イベント3_カメラ1_11月7日_0:36



イベント4_カメラ1_11月7日_0:48



イベント 5_カメラ 1_11月 14日_4:39



イベント 6_カメラ 1_11月 25日_0:46



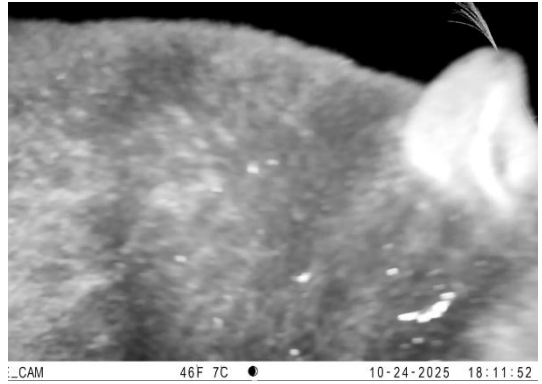
イベント 7_カメラ 1_11月 25日_5:27



イベント 8_カメラ 2_11月 6日_20:48



イベント 9_カメラ 2_11月 25日_5:27



イベント 10_カメラ 6_10月 24日_18:11

写真 2 撮影されたクマ



CORE_CAM 59F 15C 11-04-

カメラ 1_11月4日_日中



CORE_CAM 54F 12C 11-07-

カメラ 1_11月7日_夕方



CORE_CAM 53F 11C 11-08-

カメラ 1_11月8日_日中



CORE_CAM 54F 12C 11-15-2025

カメラ 1_11月15日_日中



CORE_CAM 52F 11C 11-25-2025

カメラ 1_11月25日_日中

写真3 クマ出没前後に撮影された通行人

第2章 現地調査および移動経路の考察

1. 現地調査

令和7年11月27日に現地調査を実施した。設置したカメラの周辺および市街地へ続く西側林帯にある痕跡や誘引物を調査した。なお、調査は道路上から実施したため、民家敷地内や山林内の誘引物や痕跡等は確認していない。調査結果を図3に示した。

痕跡は後生平ため池付近の北上川右岸で多く確認された。そのほか、金ヶ崎橋付近の柿の木や森山総合公園付近の林帯、千貫石ダム付近の林帯でも複数確認できた。

痕跡の種類としては、足跡、爪痕、枝折れ、糞が確認された。樹種別の痕跡(表4)では柿が多く、市街地付近の管理されない柿の除去は今後の対策として有効とみられる。

誘引物は柿と栗が多くみられ、畑地には廃棄作物が放置されている箇所も見られた。廃棄作物の適切な処理はクマのみならず他獣種の対策としても有効である。



図3 現地調査で確認したクマの痕跡および誘引物

表4 樹種別の痕跡

痕跡/樹種	柿	栗	その他	合計
足跡	-	-	-	4
爪痕	8	0	0	8
枝折れ	4	3	5	12
クマ棚	0	2	0	2
糞	-	-	-	5
樹皮剥ぎ	0	0	1	1
総計	12	5	6	32



足跡



足跡



爪痕 (柿)



爪痕 (柿)



枝折れ (柿)



枝折れ (栗)



糞（柿採食後）

糞

写真3 現地調査で確認した痕跡_いずれも後生平ため池付近

2. 移動経路の考察

金ケ崎町が公表している2025年「金ケ崎町クマ出没情報」より、センサーカメラを設置した期間のデータ（令和7年10月20日～令和7年12月19日）を抽出した。これに現地調査の結果を加え、クマの移動経路を考察する（図4）。なお、目撃情報は人目のつきやすい場所や人の活動する時間帯などが多く報告される傾向にあることを考慮する必要がある。現地調査の結果から、柿や栗の採食を目的として川沿いの人目の少ない市街地周辺を利用していると考えられる。

移動経路としては、後生平ため池付近の川沿いの林帯を利用していることが判明した（図5）。10月中旬と11月中旬は後生平ため池付近で目撃情報も寄せられており、これらはセンサーカメラで撮影された個体と同一である可能性も考えられる。県立農業大学校付近や森山総合公園付近の林帯は春から通じて目撃があるものの、付近を利用するクマの移動経路については今回の調査範囲からは判然としない。より具体的に移動経路や出没要因を把握するためには、目撃地点を中心とした現地調査など継続した調査が必要である。

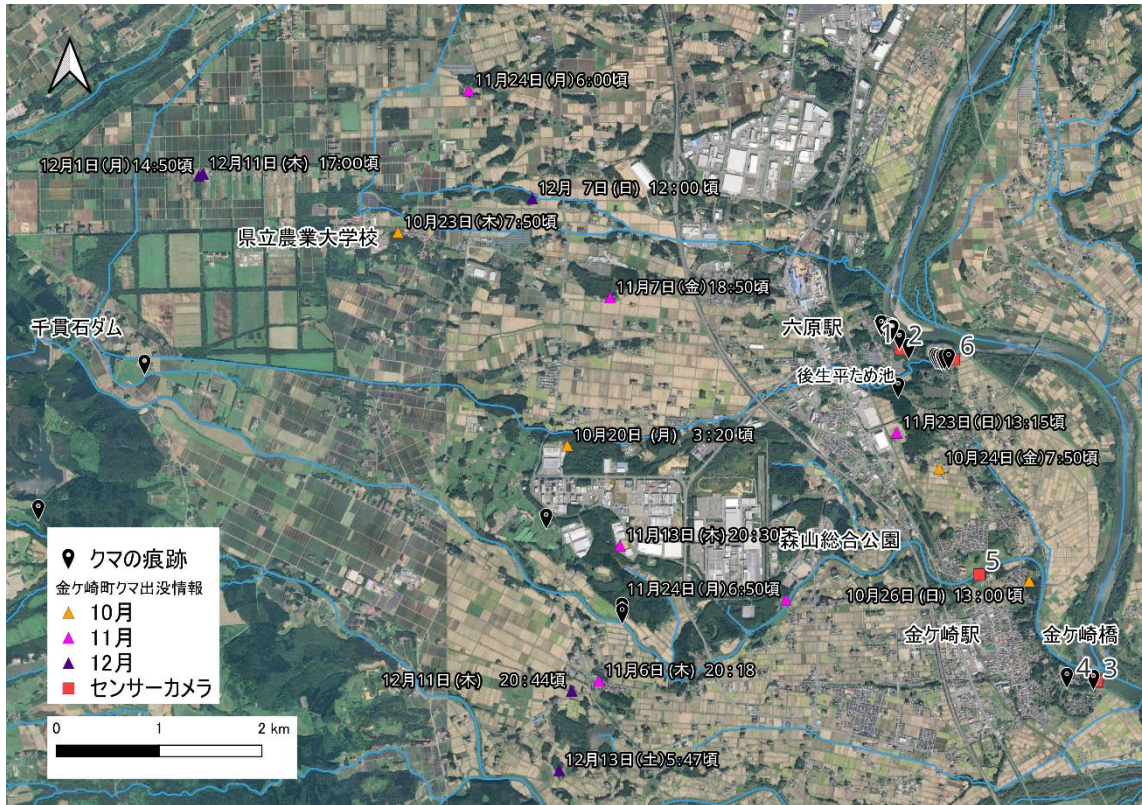


図4 2025年「金ケ崎町クマ出没情報」(センサーカメラ設置期間抽出)および現地調査で確認した痕跡情報

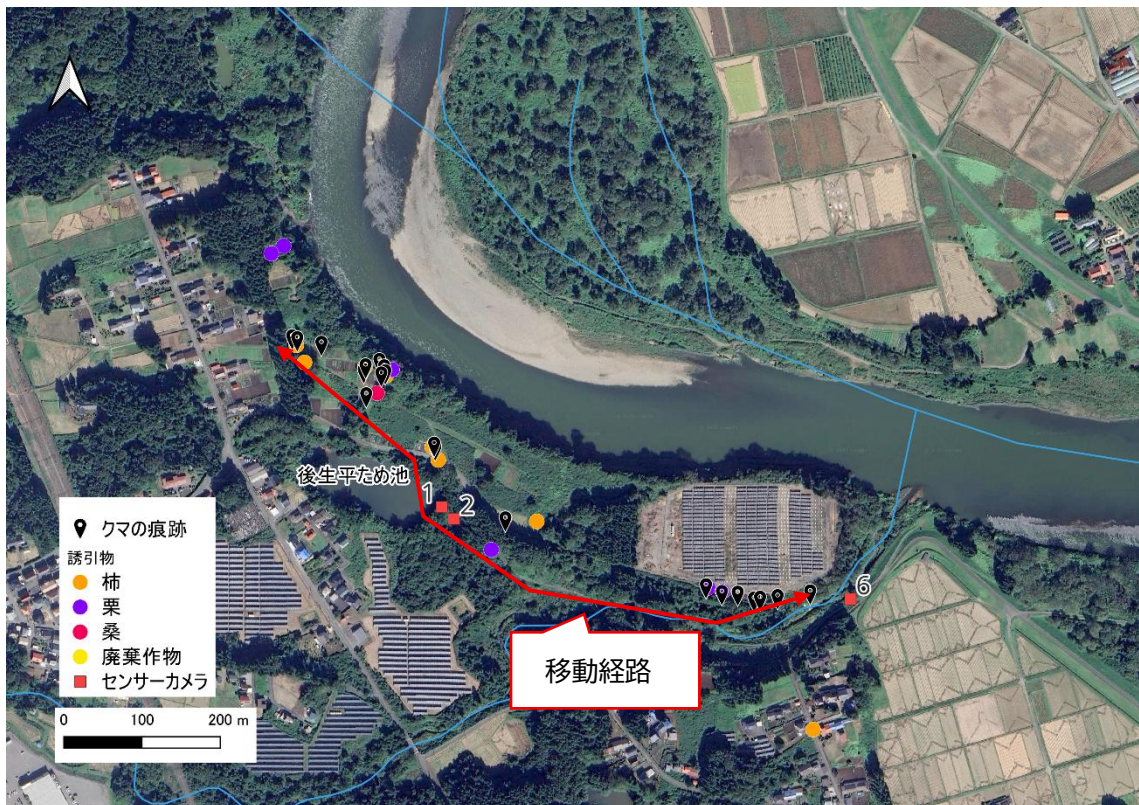


図5 現地調査で確認したクマの痕跡および誘引物_後生平ため池付近

第3章 総括

金ケ崎町はここ 10 年ほど市街地へのクマの出没が後を絶たない。地形的にみると、西側にクマが多く生息する奥羽山脈があること、町全体に北上川の支流が複数流れていることが大きな要因と考えられる。本調査では、昨年度に引き続き 6 台のセンサーカメラを設置しての調査と、その付近の現地調査を行った。センサーカメラでは複数のクマが撮影され、痕跡や目撃情報から移動経路の一部を考察することができた。しかし、クマの目撃情報は町全体に及んでおり、今年度の調査の規模では全体の移動経路や出没要因を把握することが困難であった。より具体的に生息状況や移動経路を把握し、効率的な対策を講じるために以下に改善案および対策案を挙げる。

- ① 交尾期でクマの活動が活発になる初夏からセンサーカメラを設置する
- ② センサーカメラの台数を増加する
- ③ 広範囲で現地調査を実施する（複数年に分けることが望ましい）
- ④ 捕獲したクマに GPS 発信機を装着し、その移動経路や行動を明らかにする
- ⑤ 個体識別を行う調査手法を用いて地域ごとの生息密度を把握する

また、今回の現地調査では、管理されずに放置された果樹や廃棄作物の付近にクマの痕跡があることが確認された。調査した時期及び範囲が限定的であったため、ヤブの状況や柵の設置状況等は確認していないが、環境整備等を含めた総合的な対策に関する住民の理解促進を図ることも効果的であると考えられる。これらの対策はクマのみならずシカやイノシシにも効果が見込まれる。例えば出没が多い地区をモデルとして、丁寧に PDCA サイクルをまわすことで、対策の効果を実感しやすくなる。

今後の金ケ崎町の取り組みに期待したい。

令和7年度
金ケ崎町ツキノワグマ動向調査業務
報告書

令和7年12月
岩手県 胆沢郡 金ケ崎町
(受託：合同会社 東北野生動物保護管理センター)